

放射光共同利用実験審査委員会速報

放射光実験施設運営部門 君島堅一
兵藤一行

2021年9月29日(水)に、放射光共同利用実験審査委員会(PF-PAC)全体会議が、オンライン会議形式で開催されました。放射光実験施設報告やPF-PAC制度など実験施設運営に関する重要事項の報告・協議・審議がなされました。今回は、2021年度第2回目の全体会議になります。

報告事項

放射光実験施設報告(船守実験施設長)

予算編成・要求の方針、運転時間、フォトンファクトリー計画推進委員会設置準備、次期放射光源計画、開発研究多機能ビームライン、ビームラインR&D計画、加速器R&D計画、審査システムの改修・運用などについて報告がなされました。また、KEK 50周年式典の案内がありました。

審議事項

1. 課題採択の基準評点について

課題採択の基準評点を固定とする提案がありました。内容について審議を行ない、了承されました。

2. 条件付き採択時の採択条件について

課題採択について分科会から条件付き採択と提案する場合は、全体会議で報告するとともに、分科会の施設内担当者が責任を持って条件の文案を準備する、との提案がなされ了承されました。

協議事項

主に以下の6つの事項について協議されました。

- ・測定器開発室ビームライン(AR-SE2A)の課題審査について
(協議事項の内、外部組織との調整の必要のない以下の事項については次回以降に結論を出すこととされました。)
- ・実験課題責任者の資格について
- ・S2課題の運用について
S2型課題へのビームタイム配分について他の課題とのバランスを考慮して配分をおこなう運用案をベースに、前回の全体会議から引き続き検討が行われました。
- ・S1/S2・U型・T型課題の評価方法について
評価の結果が、評価される側に適切にフィードバックされるような方法、評価する側の負担のあり方などについて、議論されました。今年度のサイエンスフェスタについては、従来の方針で評価を行うこととなり、次回の全体会議以降引き続き検討することになりました。

- ・課題再申請の条件について
- ・重要課題の発掘について

その他

インドビームライン(BL-18B)の協定延長の準備を進めていること、実験課題審査の分科会審査における分科会委員やレフェリーの専門分野について、課題審査におけるレフェリーによる「総合評価」廃止の影響について改正後2年が経過する来年度に事後評価を行いたいこと、などの報告がありました。

次回PF-PAC全体会議は2022年1月の開催を予定しています。

第137回物質構造科学研究所運営会議議事次第

日時：2021年9月28日(火) 15:00～

開催方法：Web会議

【1】 前回議事要録について

【2】 審議

- (1) 2021年度後期ミュオン共同利用S型実験課題審査結果について
- (2) 2021B期J-PARC/MLFにおける大学共同利用中性子実験課題(一般・産業利用)の審査結果について
- (3) 2021B期J-PARC/MLFにおける大学共同利用ミュオン実験課題(一般・産業利用)の審査結果について
- (4) 物構研の人事方針等について
- (5) 教員人事(物構研21-1・放射光・准教授もしくは特別助教若干名)
- (6) 教員人事(物構研21-2・放射光・准教授もしくは特別助教若干名)
- (7) 教員人事(物構研21-3・中性子・教授1名)
- (8) 教員人事(物構研21-4・中性子・准教授1名)
- (9) 教員人事(物構研21-5・ミュオン・特別助教1名)
- (10) 特定有期雇用職員の雇用計画について(特定人事・放射光・特別教授1名)

【3】 報告事項

- (1) 人事異動
- (2) 博士研究員の選考結果について
- (3) 2021年度後期放射光共同利用実験課題審査結果について(条件解除)
- (4) 2020年度および2021年度放射光共同利用実験課題審査結果について(P型)

【4】 研究活動報告(資料配布のみ)

- (1) 物質構造科学研究所報告
- (2) 素粒子原子核研究所報告

- (3) 加速器研究施設報告
- (4) 共通基盤研究施設報告

物構研コロキウム

日時：2021年9月13日（月） 16:15～（オンライン）
題名：#36 ミュオンは超伝導の研究にどう役立ってきてどう役立っていくか
講師：足立匡氏（上智大学・理工学部）

日時：2021年10月11日（月） 16:00～（オンライン）
題名：#37 北大創薬センターにおける新型コロナウイルス治療薬開発に向けた取り組み
講師：前仲勝実氏（北大・大学院薬学研究院）